

「被害を受けて」

今年の十月二十日はいつも通りに学校がありました。朝は少し風が強いくらいで、全く気にしていませんでした。

学校でその事を話していましたが、すぐに台風接近の為に帰ることになりました。

家に帰っても話題は持ち切りでした。私の頭の中にはこれから台風が直撃するという考えは全くありませんでした。

六時頃、突然水が道路が水で覆われている事に気付いた祖母は、鍋やバケツに水を溜め始めました。何も考えずに私は、テレビを見していました。

そのうちに消防の人が来て、「避難せんと危いで！」と言ってくれましたが二階で過ごすと言いました。流石にこの状況までくると私も言葉を失い、とりあえず祖母に言われるままに靴を持って二階へ上がったり、縁側の米俵をも持ちました。その後、壊中電灯と菜を枕下に置いて不安を抱えながら寝ました。

次の日、起きたのは四時でした。まだ朝日が昇る寸前で私はそうじを始めました。わずかに三畳ぐらいの縁側をふくのには四時間ぐらいかかり、何度ふいても雑布が真ッ茶色になるばかりでした。庭も「ごみおきは」のようでは私はため息しかできませんでした。

私はこの経験を通して、台風の恐ろしさやこれまで台風の被害を受けた人の気持ちがよく分かりました。だから、被害を受けていない人が被害の大きさも分からずに分析するだけという事に腹が立ちました。私の家は軽い被害で済みましたが嫌な思い出として残っています。

これからくる台風に備えて、必要な道具などを常備しておく事が大切になると思うので、過去という事だけで終わらないようにしたいです。